

「資源循環型パッケージングカンパニー」を目ざして

2023年12月期第2四半期決算説明会資料

資料構成

1. 2023年12月期第2四半期トピックス
2. 2023年12月期第2四半期業績概要
3. 資源循環型パッケージングに関する取り組み
4. 改善に向けた取り組み
5. 参考資料



1. 2023年12月期第2四半期トピックス

2Q業績総括 ①

【業績】

- 連結売上高は、71億56百万円 (前年同期比1.4%減)
- 連結営業利益は、2億20百万円 (前年同期比54.1%減)
- EBITDAは、7億9百万円 (前年同期比27.3%減)

【特徴】

- 国内は化粧品容器向け需要の本格的回復までには至らず。中国もゼロコロナ政策解除後も消費マインドの冷え込み継続。一方、インドは受注が堅調で計画達成の見込み
- バイオマス樹脂やリサイクル樹脂を使用した容器、詰替え容器が伸長。新たに追加した区分※を含め資源循環型パッケージング売上は16億56百万円(連結売上高の23.2%)と拡大

※今期より「資源循環が容易に可能な製品」を集計対象に追加しております

- 国内は資源高の影響継続。原材料費及び水道光熱費負担は前年同期比で増加

1. 2023年12月期第2四半期トピックス

2Q業績総括 ②

【日本】

- 売上面では化粧品容器向け需要の本格的回復までには至らず。売上高は56億32百万円(前年同期比0.7%増加)の微増にとどまる
- 一方、お客様の環境意識が一層高まり、資源循環型パッケージング売上が引き続き伸長。特に、バイオマス樹脂やリサイクル樹脂を使用した容器、詰替え容器については引き続き需要増
- コスト面では資源高の影響を受け原材料費及び水道光熱費の負担が増加し利益水準が低下
- 営業利益は原材料費、水道光熱費の負担増及び展示会での広告宣伝費増により3億45百万円(前年同期比29.2%減少)と減益に

1. 2023年12月期第2四半期トピックス

2Q業績総括 ③

【中国】

- 売上高は13億17百万円(前年同期比で12.2%減少)と減収となる
- ゼロコロナ政策解除後の消費回復が鈍い中、容器供給者間の競争激化など外部環境の変化もあり、受注が低調に推移している
- 売上高の減少から工場稼働が低下し1億21百万円の営業赤字となった

【インド】

- 売上高は2億1百万円（前年同期比49.4%増）と半期単位での最高額を更新
- インド化粧品市場の活況が継続。営業活動を通じ当社の特徴(アイテム数の多さ等)も浸透し、取引顧客数も増加
- 売上続伸により粗利ベースで黒字を確保。生産能力向上による効率アップ、取扱製品数の増加による顧客層拡大等の諸施策を実施中。営業利益黒字化へ向けた取り組みを継続

1. 2023年12月期第2四半期トピックス

通期業績予想修正①

連結	前回予想(A)	今回予想(B)	増減額	
			(B-A)	増減率 (%)
	百万円	百万円	百万円	
売上高	16,900	14,500	▲2,400	▲14.2
営業利益	1,330	500	▲830	▲62.4
営業利益率	7.9%	3.4%	—	▲4.5 P
経常利益	1,360	570	▲790	▲58.1
当期純利益	930	270	▲660	▲71.0

【修正の理由】

- 日本、中国とも化粧品容器向け需要が本格回復までには至らず、売上高が計画を大きく下回ったことが原因で利益水準が予想を大幅に下回る
- 下期は日本、中国での需要の回復を見込んでいるものの、第2四半期末時点の受注状況等と受注獲得から売上実現までのタイムラグを勘案し、通期売上見込み額も修正

1. 2023年12月期第2四半期トピックス

通期業績予想修正②

地域別グループ企業業績		前回予想(A)	今回予想(B)	増減額	増減率
				(B-A)	(%)
日本	売上高	百万円 12,500	百万円 11,550	百万円 ▲950	▲7.6
	営業利益	1,270	780	▲490	▲38.6
	営業利益率	10.2%	6.8%	—	▲3.4 P
中国	売上高	3,900	2,590	▲1,310	▲33.6
	営業利益	90	▲260	▲350	—
	営業利益率	2.3%	—%	—	—
その他	売上高	720	710	▲10	▲1.4
	営業利益	▲30	▲20	+10	—
	営業利益率	—%	—%	—	—

【下期の想定・見込み】

- 日本は資源循環型パッケージング新製品販売の本格化、販売価格の継続的な見直し及び生産効率の向上により収益性の改善が見込める想定。中国は受注を挽回する施策を行う方針であるが売上への貢献には時間を要するため上期並みの損益を想定。インド（その他地域）は需要が旺盛で計画通り推移。欧州はEC販売開始による取引増加を想定

【配当予想について】

- 今回の業績予想修正に伴う配当予想の修正はなし

資料構成

1. 2023年12月期第2四半期トピックス
2. 2023年12月期第2四半期業績概要
3. 資源循環型パッケージングに関する取り組み
4. 改善に向けた取り組み
5. 参考資料



2. 2023年12月期第2四半期業績概要

2023年12月期第2四半期連結決算ハイライト

	2022年第2四半期 (1-6月期) ¥18.97/RMB ¥123.14/USD	2023年第2四半期 (1-6月期) ¥19.46/RMB ¥135.00/USD	前年同期比		2023年計画比	
			増減	増減率	増減	増減率
売上高	百万円 7,259	百万円 7,156	百万円 ▲103	▲1.4%	百万円 ▲993	▲12.2%
営業利益	479	220	▲259	▲54.1%	▲349	▲61.3%
売上高営業利益率	6.6%	3.1%	▲3.5P	—	▲4.0P	—
経常利益	577	287	▲289	▲50.1%	▲312	▲52.0%
四半期純利益	359	131	▲228	▲63.5%	▲268	▲67.2%

減価償却費	497	489
原材料費	1,082	1,071
設備投資額	288	891
(うち 金型)	67	144
EBITDA	976	709
EBITDA比率	13.5%	9.8%

※収益認識基準の変更に伴い、2022年第1四半期から有償支給した支給品等に係る収益は認識しない方法に変更されております

2. 2023年12月期第2四半期業績概要

地域別グループ企業業績

日本	2022年第2四半期	2023年第2四半期	前年同期比		計画比	
			増減	増減率	増減	増減率
			売上高	5,592	5,632	+39
営業利益	488	345	▲142	▲29.2%	▲257	▲42.7%
営業利益率	8.7%	6.1%	▲2.6P	—	▲3.7P	—

中国	2022年第2四半期 ¥18.97/RMB	2023年第2四半期 ¥19.46/RMB	前年同期比		計画比	
			増減	増減率	増減	増減率
			売上高	1,500 (79)	1,317 (67)	▲183 (▲11)
営業利益	0 (0)	▲121 (▲6)	▲122 (▲6)	— —	▲113 (▲5)	— —
営業利益率	0.1%	▲9.2%	▲9.3P	—	▲8.7P	—

その他地域	2022年第2四半期 ¥123.14/US\$ ¥134.39/€ ¥1.62/INR ¥3.65/TB	2023年第2四半期 ¥135.00/US\$ ¥145.93/€ ¥1.65/INR ¥3.95/TB	前年同期比		計画比	
			増減	増減率	増減	増減率
			売上高	268	334	+66
営業利益	▲13	▲7	+5	—	+9	—

百万円

- 日本はお客様の環境意識の一層の高まりから資源循環型パッケージング売上が引き続き伸長。受注は本格回復までに至っていないが、2Q受注は1Q対比増加
- 利益面では資源高による負担増が継続。販売価格への転嫁は進めているものの営業利益率は6.1%と2.6P低下

- 中国は昨年12月のゼロコロナ政策解除後も化粧品需要が回復せず売上は低迷
- 利益面でも売上減少により工場の稼働が低下したことから粗利額が減少し営業利益は大幅赤字に

- アメリカは売上が計画比、昨年比減で推移。大口顧客の受注減の影響あり

- オランダは売上が昨年比増で推移。国際運送費の安定で受注が徐々に回復傾向に

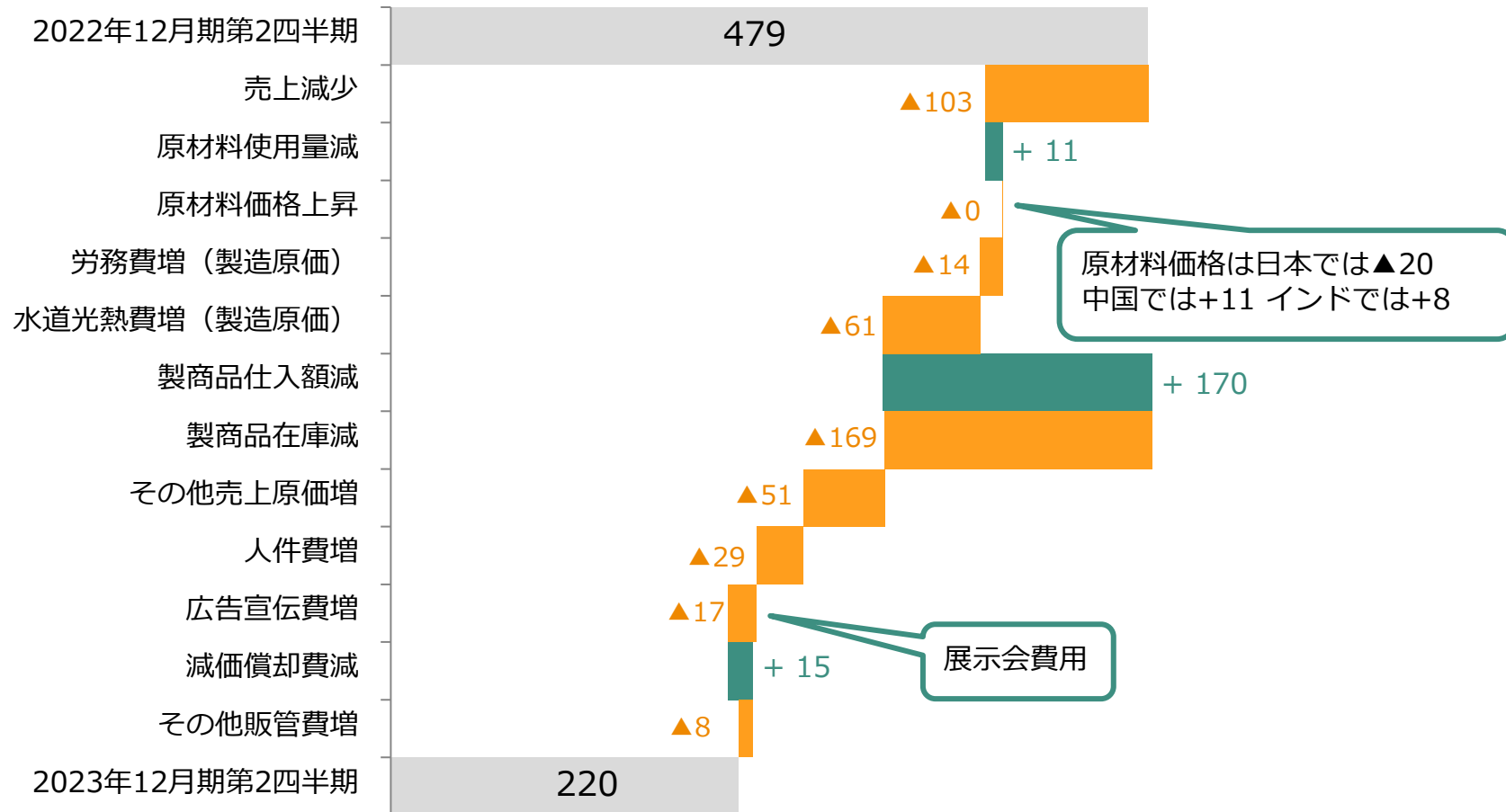
- インド国内化粧品市場の需要は旺盛。製品拡充効果もあり、新規顧客を取込み需要増。売上は昨年比増で推移

※ () 内はRMBベース:百万円

2. 2023年12月期第2四半期業績概要

2023年12月期第2四半期 営業利益の変動分析

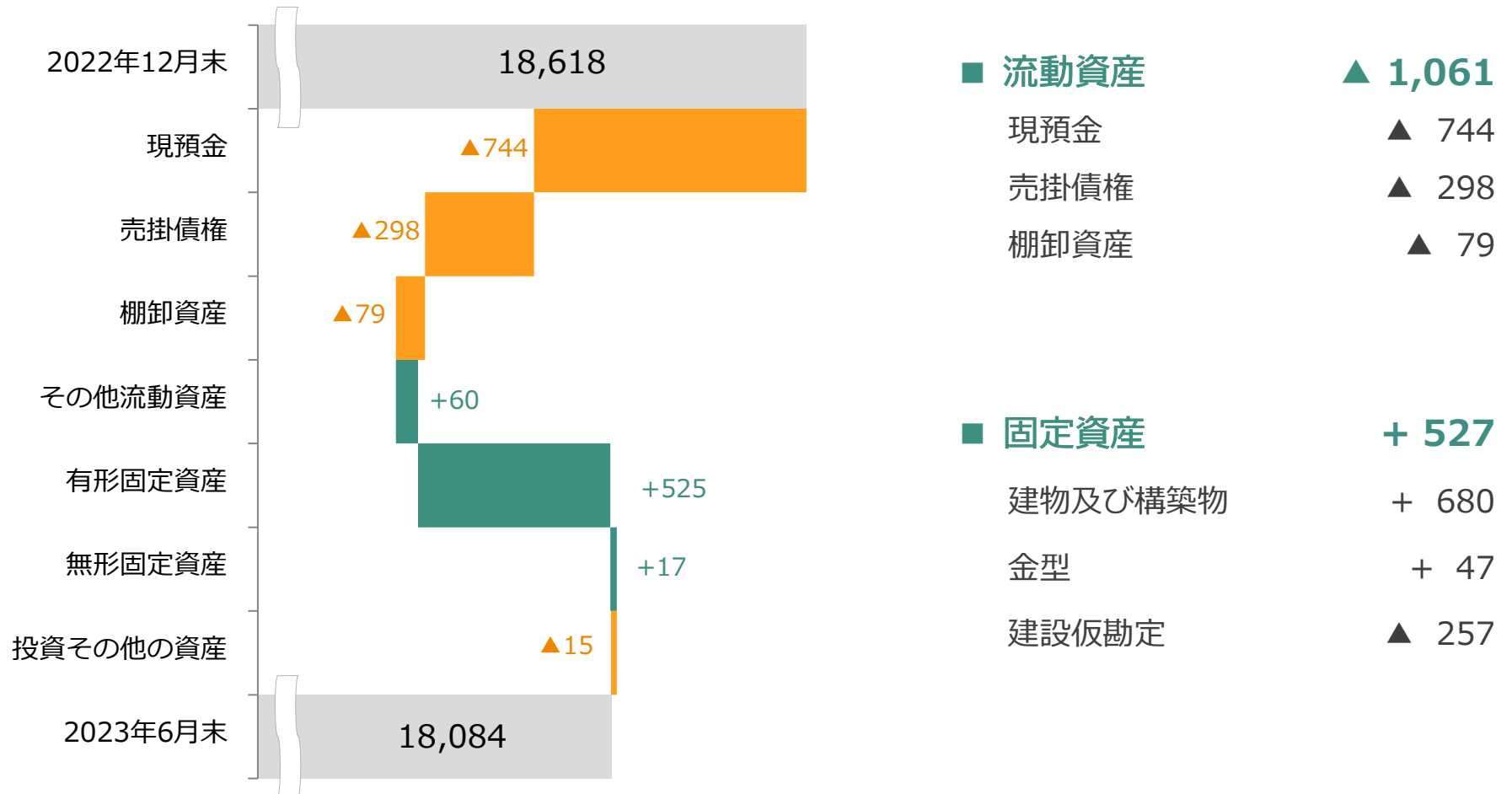
単位：百万円



2. 2023年12月期第2四半期業績概要

2023年12月期第2四半期 連結貸借対照表 資産の部

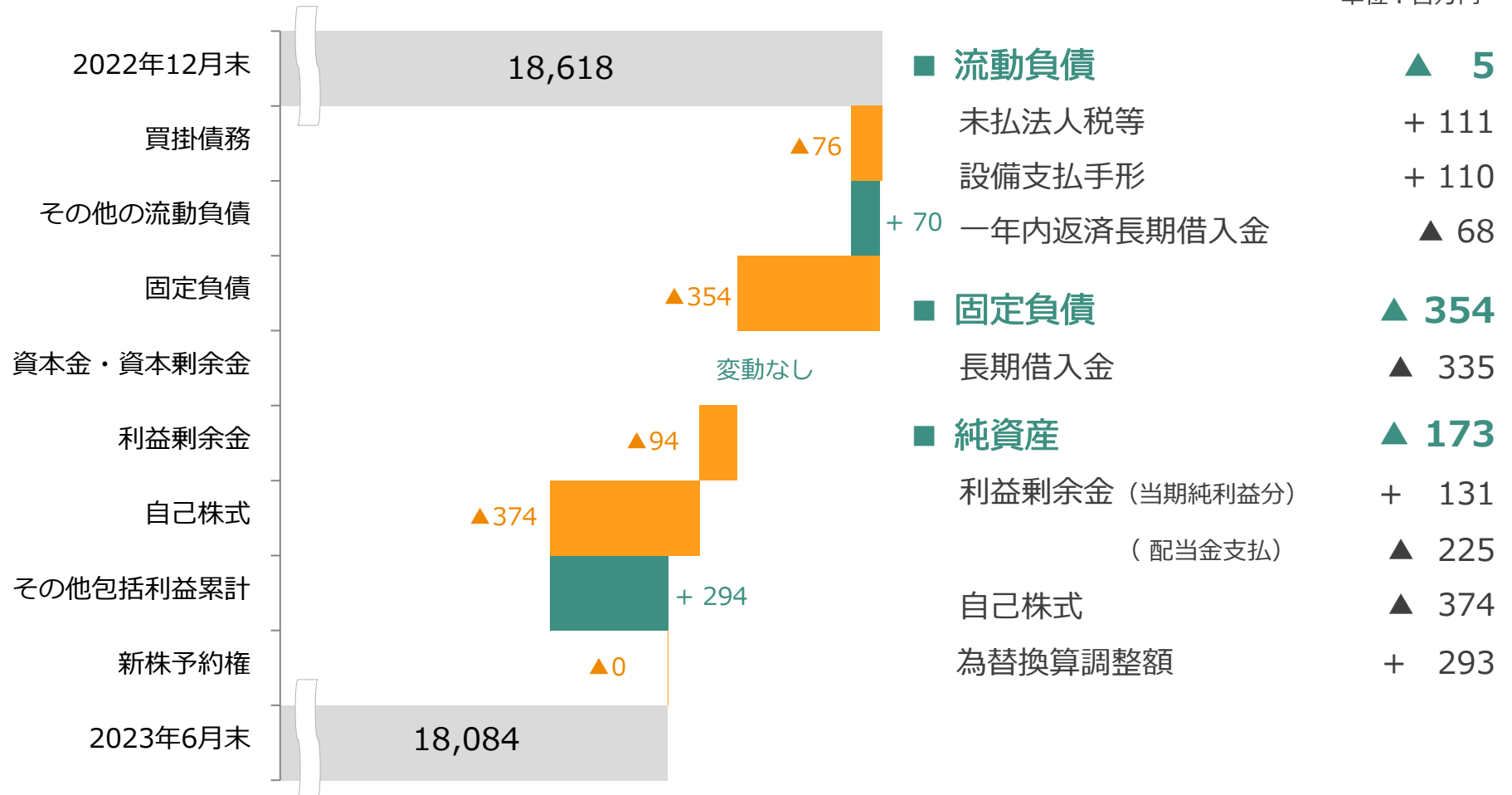
単位：百万円



2. 2023年12月期第2四半期業績概要

2023年12月期第2四半期 連結貸借対照表 負債・純資産の部

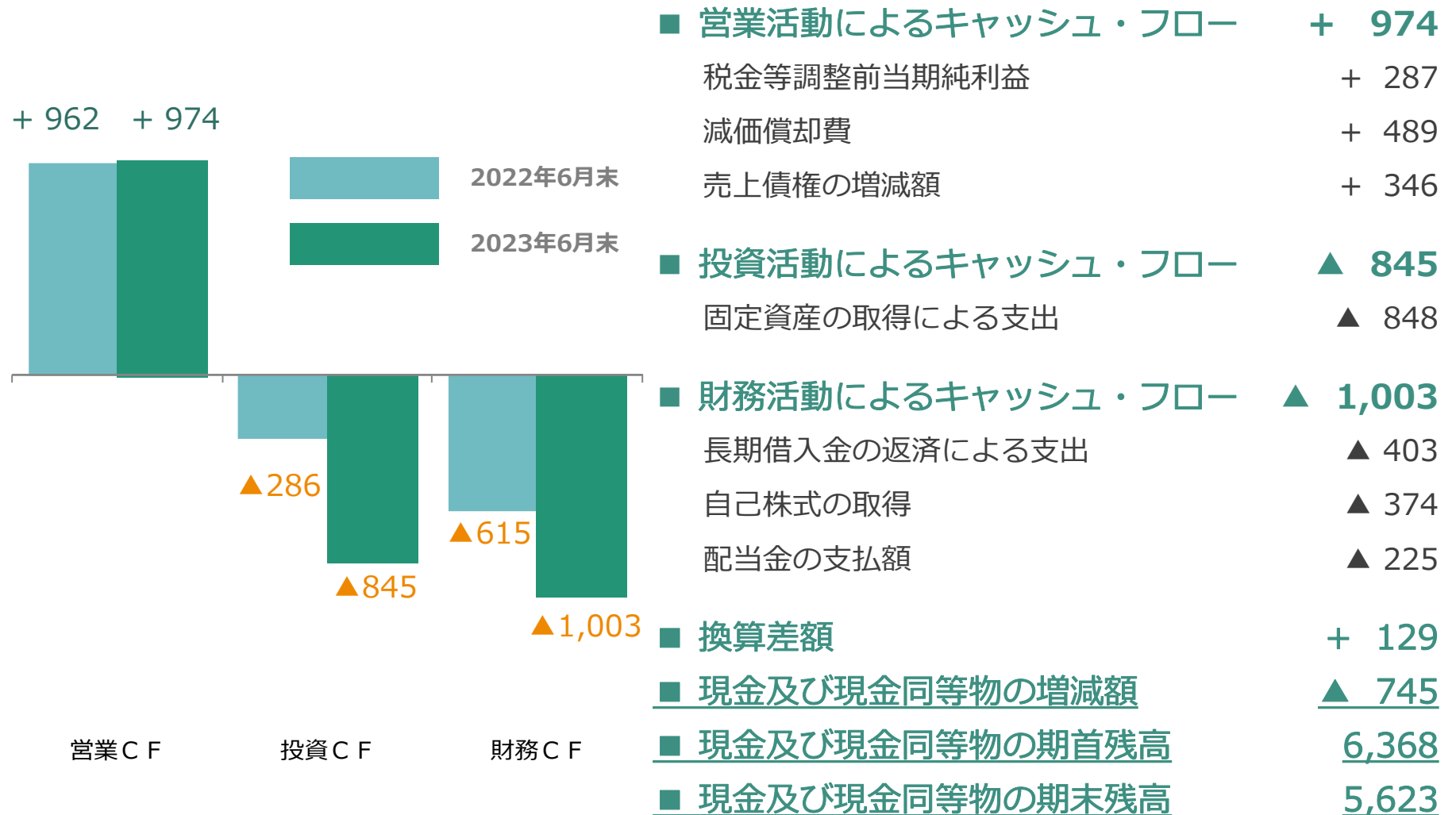
単位：百万円



2. 2023年12月期第2四半期業績概要

2023年12月期第2四半期 連結キャッシュ・フローの増減

単位：百万円



2. 財務戦略：配当政策

当社は、上場後に拡充した財政状況を鑑み、2024年までの期間について純資産配当率（DOE）4.0%を目途とする配当方針としております
 これにより2023年6月末株主に対する中間配当金は1株につき18.00円としております

	2022年12月期	2023年12月期
中間配当金	17.50円	18.00円（今回）
期末配当金	18.00円	18.00円（予想）
年間配当金	35.50円	36.00円
純資産配当率 （DOE）	4.0%	4.0%
配当性向	120.6%	167.1%

資料構成

1. 2023年12月期第2四半期トピックス
2. 2023年12月期第2四半期業績概要
3. 資源循環型パッケージングに関する取り組み
4. 改善に向けた取り組み
5. 参考資料



■ 化粧品



■ 食品



■ 日用品



■ サステナビリティ



3. 資源循環型パッケージングに関する取り組み

化粧品産業技術展（CITE JAPAN 2023）への出展

2023年5月にパシフィコ横浜で開催された第11回化粧品産業技術展（CITE JAPAN 2023）に4年ぶりに出展し、カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミーの実現へ向け、「資源循環型パッケージングカンパニーを目指して」をテーマとした新製品や取り組みの提案を行いました。資源循環型パッケージングを全面に打ち出し、展示品の9割、50種類の新製品を紹介したことで、お客様から大きな反響がありました。



資源循環型パッケージング展示例



3. 資源循環型パッケージングに関する取り組み

「資源循環型パッケージングカンパニー」を目指すなかで、

- Materials（原材料）
 - Recycle（リサイクル）
 - Innovation（技術革新）
- の3つのテーマに重点を置いております

資源循環型パッケージングカンパニー
を目指す3つの具体的な取り組み

①

サステナブル素材
への取り組み

②

水平リサイクルの実証実験
への取り組み

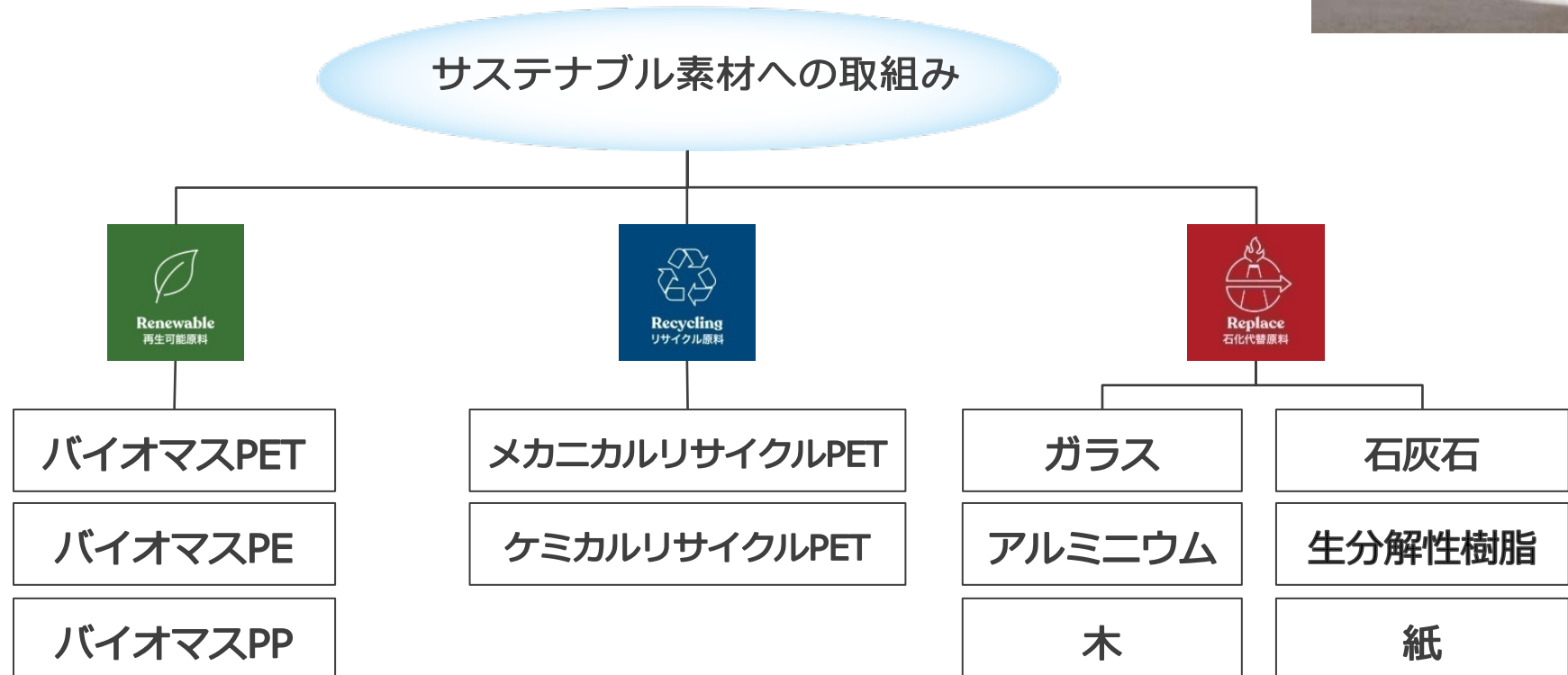
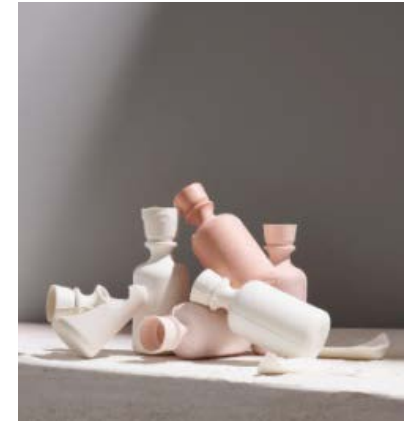
③

CO₂ 排出量削減
への取り組み

3. 資源循環型パッケージングに関する取り組み

サステナブル素材への取り組み

サステナブル素材の導入については、従来より取り組んでいる素材を含めて、様々な素材の導入・活用に、積極的に取り組んでおります



3. 資源循環型パッケージングに関する取り組み

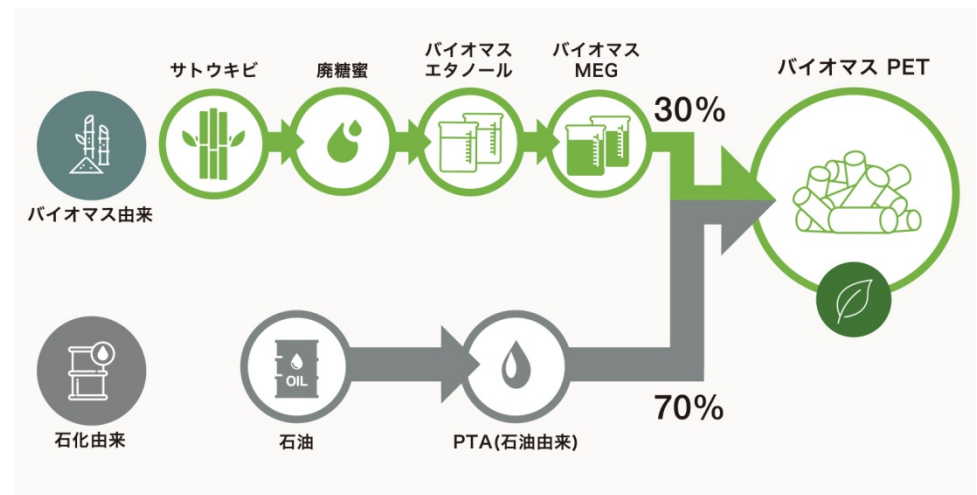
Renewable

バイオマスPET

石化原料の使用量を減らす
ソリューション



- バイオマスPETは、PET原料の3割を占めるMEG※をサトウキビ（廃糖蜜）由来のエタノールから精製したもので、石化由来PETと同等の性能があります
 - サトウキビ由来なので、CO2排出量の削減効果やカーボンオフセットが実現できます
- 【対象製品】 ボトル、ジャー容器、ケース、オーバーCAPなど



※MEG：モノエチレングリコール 出所：岩谷産業株式会社提供資料を基に作成

3. 資源循環型パッケージングに関する取り組み

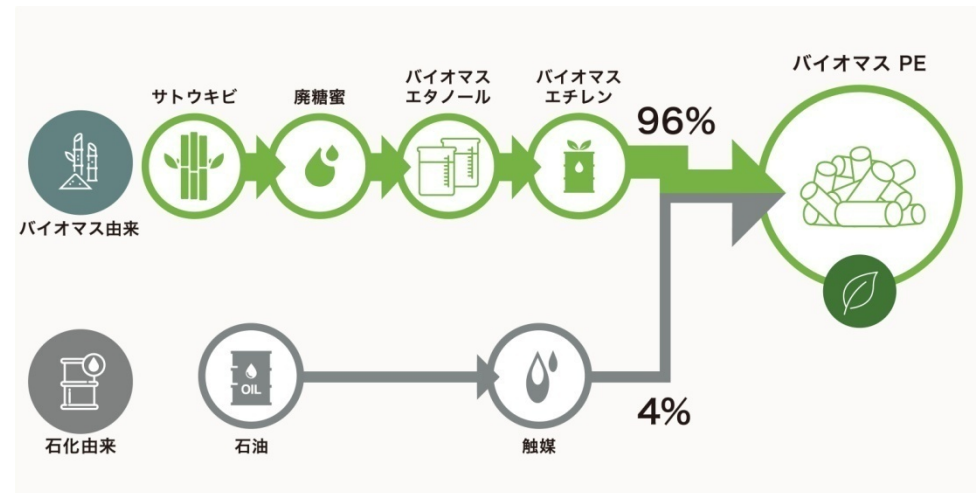
Renewable

バイオマスPE

自然から生まれる
高品質なPE原料



- バイオマスPEは、PE原料の9割を占めるエタノールをサトウキビ（廃糖蜜）から精製したもので、石化由来PEと同等の性能があります
- これまでと同様の品質・性能・外観を損なうことなく、CO2排出量と石化由来原料の使用量の削減に貢献出来ます
【対象製品】ボトル、ジャー容器、スクリュウCAPなど



3. 資源循環型パッケージングに関する取り組み

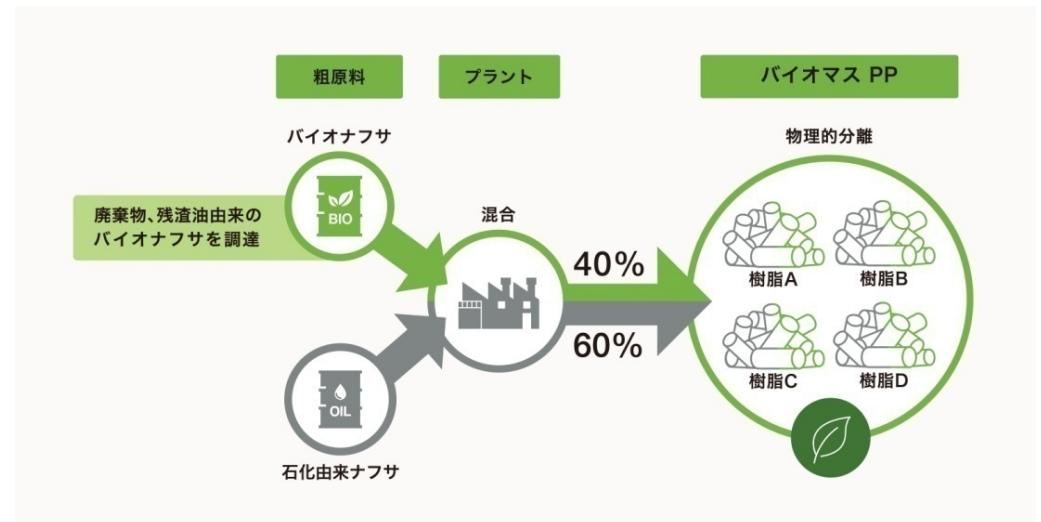
Renewable

バイオマスPP

石化原料の使用量と
CO2排出量の削減を目指して



- バイオマスPPは、食用油など廃棄される植物油原料によるバイオナフサと石化由来のナフサを混合して製造されたPP原料素材です
 - 精製方法に物理的分離方法を採用しているため、バイオマス由来度40%を保証出来る点が特徴です
- 【対象製品】 ジャー容器、スクリュウCAP、ケースなど



3. 資源循環型パッケージングに関する取り組み

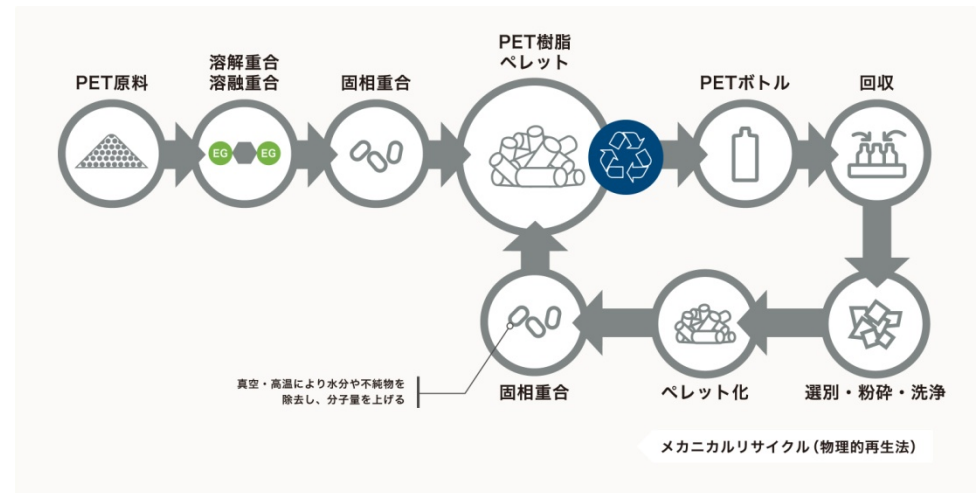
Recycling

メカニカルリサイクルPET

CO2の排出量を減らし、
リサイクルを促進します



- メカニカルリサイクルPETは、使用済みPETボトルを選別・粉碎・洗淨するなどしてフレークやペレット化し、汚染物質の除染を行ったリサイクルPET原料です
 - 成形品は僅かに飴色を呈しますが、CO2排出量の削減と資源循環に寄与する原料素材です
- 【対象製品】 ボトル、ジャー容器など



出所：ペットボトルリサイクル推進協議会HPを基に作成

3. 資源循環型パッケージングに関する取り組み

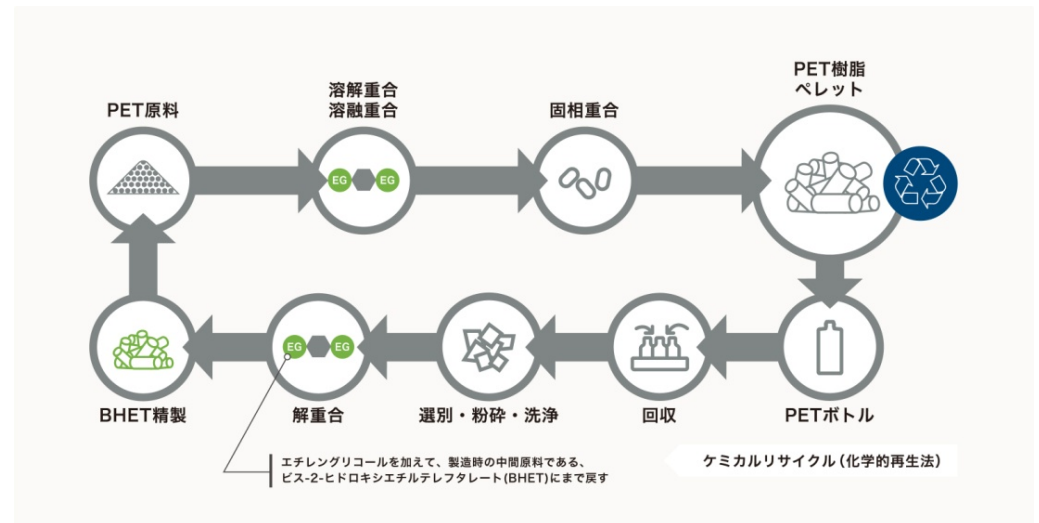
Recycling

ケミカルリサイクルPET

品質を損なわない
循環型リサイクル

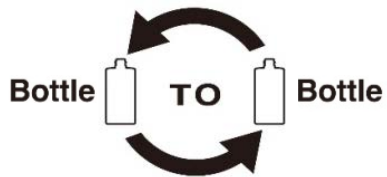


- ケミカルリサイクルPETは、使用済みPETボトルを化学的に重合を解き、樹脂原料又は中間原料に分解・精製したものを再び重合し、PETに戻した原料です
- 異物や異種材質が完全に取り除かれるため、未使用の原料と同等の高い品質に再生可能です
【対象製品】 ボトル、ジャー容器など



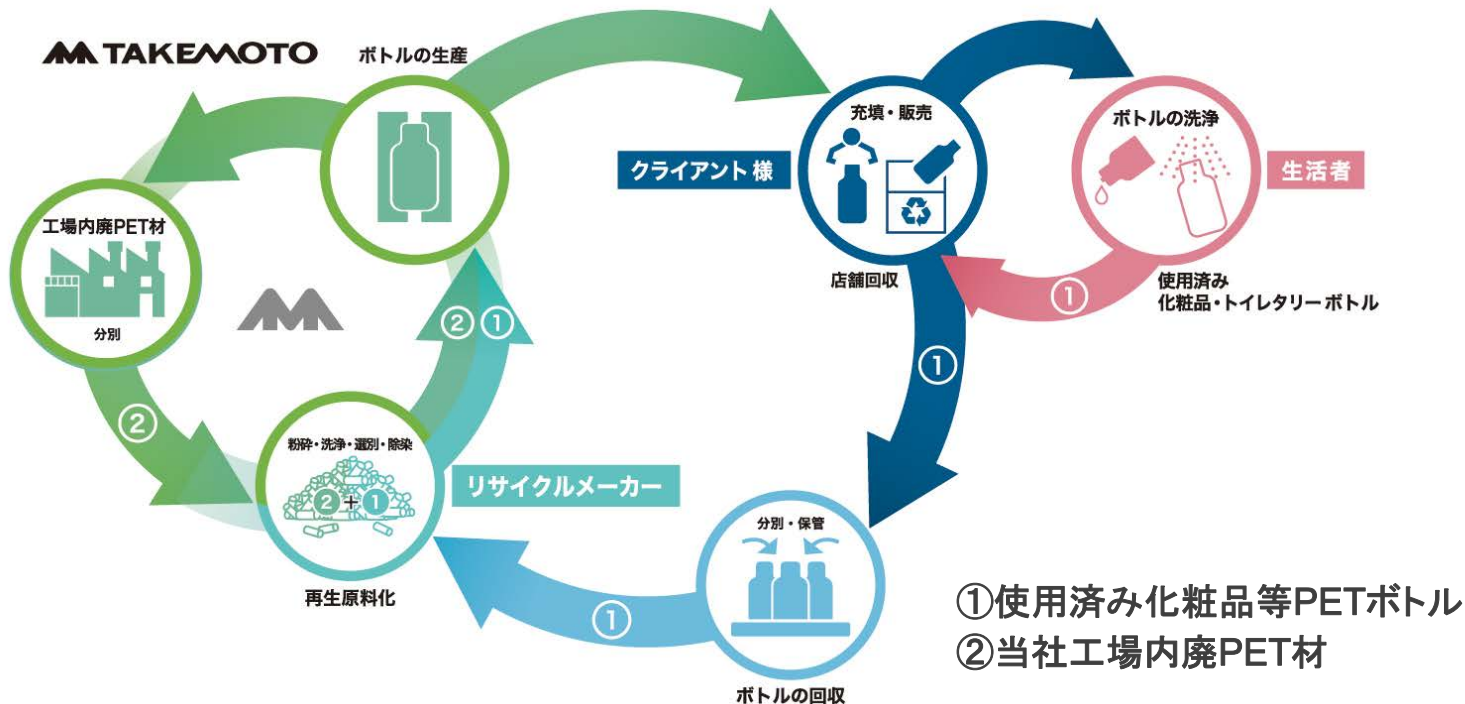
出所：ペットボトルリサイクル推進協議会HPを基に作成

3. 資源循環型パッケージングに関する取り組み



水平リサイクル実証実験

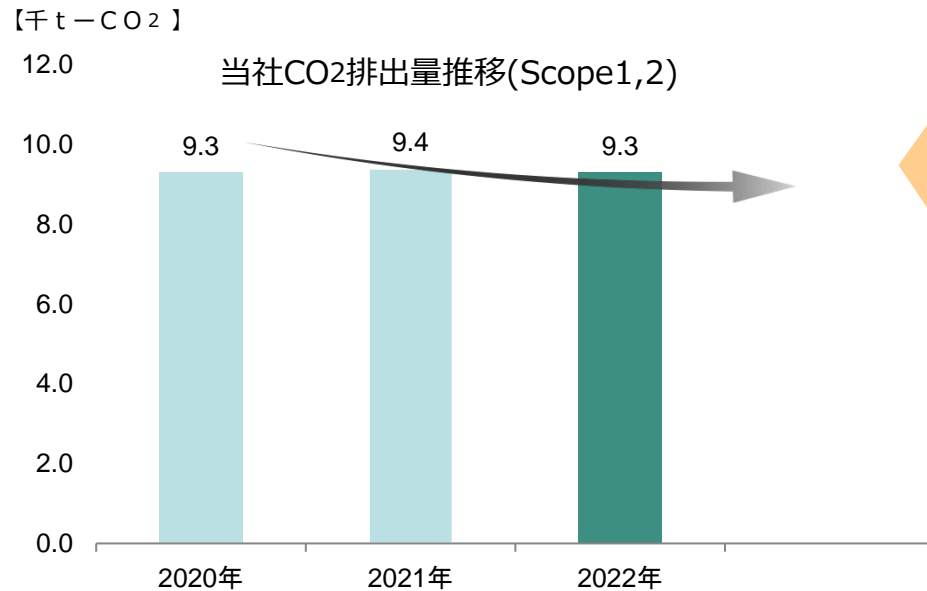
「使用済みとなった化粧品やトイレタリーのPETボトル」及び「当社の成形工場が発生する廃PET材」を原料として再生したPETボトルの利用可能性、及びこの水平リサイクル活動の実効性について、来年1年間にわたって実験を行うことを予定しています



3. 資源循環型パッケージングに関する取り組み

当社のCO2排出量の状況とCO2排出量削減への取り組み

当社の2020年～2022年のScope1,Scope2のCO2排出量は以下のとおりです。省エネ設備等への切り替えを図り、資源循環型パッケージングカンパニーとして、CO2の削減に取り組んで参ります。さらに、現在算定中のScope3のCO2排出量は、サステナブル素材の積極的な導入や水平リサイクルの実現化等により、CO2排出量の削減を進める方針です



今後のCO2削減への取り組み		
Scope1 及び Scope2	省エネ	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ生産設備の導入 照明のLED化 空調設備等の更新
Scope3	素材	<ul style="list-style-type: none"> サステナブル素材の積極的な導入
	水平リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> 水平リサイクル実証実験への取り組み及びその実現化

Scope1:製造等での燃料資料によるCO2直接排出量
 Scope2:購入した電力の使用によるCO2間接排出量
 Scope3:Scope1,Scope2以外の間接排出量
 (事業者の活動に関連する他社の排出量)

資料構成

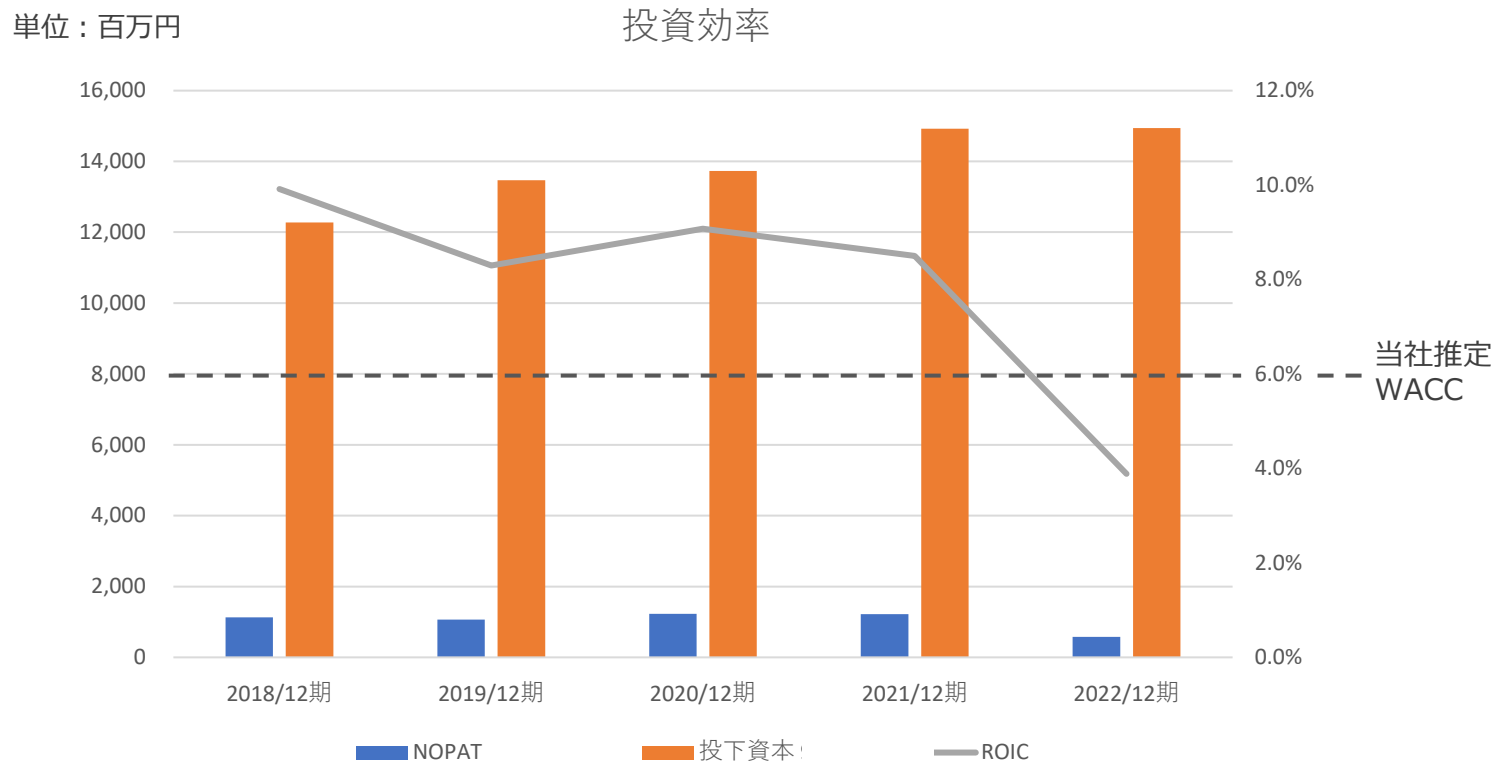
1. 2023年12月期第2四半期トピックス
2. 2023年12月期第2四半期業績概要
3. 資源循環型パッケージングに関する取り組み
4. 改善に向けた取り組み
5. 参考資料



4.改善に向けた取り組み

資本コストや株価を意識した経営（現状分析）～①

- ・当社では、資本コストについて毎年算出を行っており、ハードルレートを意識した経営を行っております
- ・株主資本コストについては8%前後、WACCについては6%前後と認識しております
- ・ROICベースのリターンでは、直近の2022年12月期に大きく低下している状況です



4.改善に向けた取り組み

資本コストや株価を意識した経営 (セグメント別の現状分析と今後の取り組み) ~②

直近のROICベースのリターンが低下しているのは、国内及び中国事業の収益性低下が主要因であるため、国内及び中国における現状分析を行ったうえで今後に向けて改善の取り組みを実施して参ります

セグメント	現状分析	改善に向けた取り組み
日本	<ul style="list-style-type: none"> ✓ トップラインの伸び鈍化 ✓ コスト高による利益水準の低下 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 新規顧客の開拓 ✓ 開発提案型営業による新規案件の増加 ✓ 資源循環型パッケージング新製品の開発 ✓ 金型開発のスピードアップ ✓ 製品価格の継続的な見直し ✓ 生産効率の向上
中国	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 中国国内の競争が激化 ✓ 受注の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 販売力強化 ✓ 資源循環型パッケージング新製品の開発 ✓ 金型開発のスピードアップ

資料構成

1. 2023年12月期第2四半期トピックス
2. 2023年12月期第2四半期業績概要
3. 資源循環型パッケージングに関する取り組み
4. 改善に向けた取り組み
5. 参考資料



5. 参考資料

地域別グループ企業業績（2021年からの四半期推移）

(百万円)

地域		2021年 第1四半期	2021年 第2四半期	2021年 第3四半期	2021年 第4四半期	2022年 第1四半期	2022年 第2四半期	2022年 第3四半期	2022年 第4四半期	2023年 第1四半期	2023年 第2四半期
日本	売上高	2,890	3,086	3,196	2,832	2,669	2,923	2,885	2,912	2,710	2,921
	粗利額	997	981	1,037	925	817	881	828	814	756	822
	営業利益	410	327	451	296	220	267	225	208	154	191
中国	売上高	871	911	875	886	850	650	989	675	714	602
	粗利額	254	282	204	230	229	107	182	131	138	77
	営業利益	112	126	35	60	59	▲58	▲23	▲36	▲29	▲92
欧米	売上高	61	105	66	64	70	39	44	51	24	65
	粗利額	13	21	14	12	17	13	13	16	8	14
	営業利益	0	7	1	▲6	4	0	0	1	▲7	0
その他 アジア	売上高	38	48	40	53	75	83	89	73	114	130
	粗利額	▲2	3	0	0	11	12	14	16	25	28
	営業利益	▲20	▲13	▲19	▲21	▲9	▲9	▲9	▲13	2	▲2
連結	売上高	3,803	4,079	4,105	3,787	3,606	3,653	3,965	3,659	3,502	3,654
	粗利額	1,263	1,288	1,257	1,169	1,077	1,014	1,040	976	929	943
	営業利益	503	450	472	328	277	202	195	161	122	98

5. 参考資料

地域別グループ企業業績（2018年からの年間推移）

(百万円)

地域		2018年		2019年		2020年		2021年		2022年	
		金額	増減率	金額	増減率	金額	増減率	金額	増減率	金額	増減率
日本	売上高	12,063	+9.5%	11,741	▲2.7%	11,651	▲0.8%	12,005	+3.0%	11,390	▲5.1%
	粗利額	3,669	+9.7%	3,730	+1.7%	3,917	+5.0%	3,942	+0.6%	3,341	▲15.2%
	営業利益	1,242	+15.3%	1,277	+2.8%	1,429	+11.9%	1,485	+3.9%	922	▲37.9%
中国	売上高	3,921	+26.7%	3,438	▲12.3%	3,149	▲8.4%	3,544	+12.5%	3,165	▲10.7%
	粗利額	1,102	+27.8%	1,003	▲9.0%	993	▲1.0%	971	▲2.2%	651	▲33.0%
	営業利益	515	+52.9%	433	▲15.8%	472	+8.9%	335	▲29.0%	▲59	—
欧米	売上高	289	▲17.5%	164	▲43.0%	184	+12.0%	297	+61.2%	206	▲30.5%
	粗利額	69	▲16.1%	40	▲40.8%	41	+1.7%	62	+49.4%	60	▲2.1%
	営業利益	▲8	—	▲31	—	▲10	—	3	—	7	+147.8%
その他 アジア	売上高	33	+23.4%	69	+106.5%	109	+57.7%	181	+64.7%	321	+77.6%
	粗利額	▲25	—	▲49	—	▲39	—	2	—	55	+2,472%
	営業利益	▲119	—	▲147	—	▲119	—	▲74	—	▲41	—
連結	売上高	16,022	+12.8%	15,196	▲5.2%	14,863	▲2.2%	15,776	+6.1%	14,885	▲5.6%
	粗利額	4,817	+12.0%	4,726	▲1.9%	4,912	+3.9%	4,979	+1.4%	4,107	▲17.5%
	営業利益	1,630	+15.5%	1,538	▲5.7%	1,778	+15.6%	1,754	▲1.3%	836	▲52.4%

5. 参考資料

区分別販売実績（2021年からの販売先の主要事業内容ごとの四半期推移）

(百万円)

	2021年 第1四半期	2021年 第2四半期	2021年 第3四半期	2021年 第4四半期	2022年 第1四半期	2022年 第2四半期	2022年 第3四半期	2022年 第4四半期	2023年 第1四半期	2023年 第2四半期
化粧・美容	2,054	2,399	2,380	2,069	2,109	2,293	2,315	2,219	1,998	2,192
日用・雑貨	249	232	229	219	217	205	215	206	263	255
食品・ 健康食品	352	356	389	372	323	326	346	339	337	388
化学・医薬	243	244	340	267	200	199	217	188	194	180
卸、その他	903	845	765	859	754	628	870	706	707	637
合計	3,803	4,079	4,105	3,787	3,606	3,653	3,965	3,659	3,502	3,654

区分別販売実績（2021年からの製商品の内訳ごとの四半期推移）

(百万円)

	2021年 第1四半期	2021年 第2四半期	2021年 第3四半期	2021年 第4四半期	2022年 第1四半期	2022年 第2四半期	2022年 第3四半期	2022年 第4四半期	2023年 第1四半期	2023年 第2四半期
スタンダード ボトル	2,791	2,980	2,993	2,920	2,769	2,759	2,974	2,743	2,677	2,848
ビスポーク	352	366	417	280	312	292	385	312	333	304
他社製品	583	679	634	489	483	589	550	565	465	475
材料その他	75	52	60	98	40	12	54	38	25	26
合計	3,803	4,079	4,105	3,787	3,606	3,653	3,965	3,659	3,502	3,654

5. 参考資料

区分別販売実績（2018年からの販売先の主要事業内容ごとの年間推移）

2018年はインバウンド需要もあり売上高は過去最高を記録。2019年は中国のEC規制がきっかけとなり化粧品需要が減少。さらに容器不足に起因する先行調達の反動もあり売上高は大幅減少。2020年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、外出機会の減少による化粧品向け需要が減少。一方、衛生関連用品の需要は増加。2021年は衛生関連用品需要は一段落したものの、口臭衛生関連は需要増で化学・医薬は伸長。資源循環型パッケージングの伸びも後押しし化粧品向けを中心に売上が拡大。2022年は3月までの行動制限の影響や下期の第7波、8波と繰り返される感染者数増加の影響もあり、化粧品需要が本格的に回復するまでには至らず前年並み。前年度の口臭衛生関連の需要は一段落し、化学・医薬品は減少

(百万円)

	2018年			2019年			2020年			2021年			2022年		
	金額	構成比	増減率	金額	構成比	増減率	金額	構成比	増減率	金額	構成比	増減率	金額	構成比	増減率
化粧・美容	9,651	60.2%	13.4%	8,802	57.9%	▲8.8	8,147	54.8%	▲7.4	8,904	56.4%	9.3	8,938	60.0%	0.4
日用・雑貨	697	4.4	1.8	705	4.6	1.0	1,019	6.9	44.5	930	5.9	▲8.7	845	5.7	▲9.1
食品・健康食品	1,310	8.2	7.3	1,385	9.1	5.7	1,347	9.1	▲2.8	1,470	9.3	9.1	1,335	9.0	▲9.2
化学・医薬	838	5.2	26.6	812	5.3	▲3.1	906	6.1	11.7	1,096	7.0	20.9	805	5.4	▲26.5
卸、その他	3,523	22.0	13.0	3,490	23.0	▲1.0	3,442	23.2	▲1.4	3,374	21.4	▲2.0	2,960	19.9	▲12.3
合計	16,022	100.0	12.8	15,196	100.0	▲5.2	14,863	100.0	▲2.2	15,776	100.0	6.1	14,885	100.0	▲5.6

5. 参考資料

受注実績（2021年からの四半期推移）

(百万円)

	2021年 第1四半期	2021年 第2四半期	2021年 第3四半期	2021年 第4四半期	2022年 第1四半期	2022年 第2四半期	2022年 第3四半期	2022年 第4四半期	2023年 第1四半期	2023年 第2四半期
国内	3,380	3,474	2,600	2,924	2,904	3,086	2,894	2,956	2,909	3,026
海外	996	1,006	951	1,264	787	926	865	819	797	709
(うち中国)	875	869	872	1,070	676	781	735	678	640	525
連結合計	4,376	4,480	3,551	4,189	3,691	4,012	3,760	3,775	3,707	3,735

受注実績（2018年からの年間推移）

2018年は国内のインバウンド需要もあり容器需要が旺盛で受注は増加。2019年は容器不足に起因する先行調達の反動と中国のEC規制の影響で受注は大きく減少。2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により外出機会が減少し、化粧品向け需要が減少するも衛生関連用品の需要が増加。2021年は資源循環型パッケージングの需要増あり。年度後半は第5波の影響もあり国内受注が減少。2022年は国内は3月までの行動制限の影響や下期の第7波、8波の影響もあり、化粧品需要は本格的な回復に至らず。中国はゼロコロナ政策による移動制限の影響で需要が停滞。12月にはゼロコロナ政策撤廃も先行き懸念残り消費停滞継続、受注は大幅減。インドは化粧品市場の活況が継続し取引顧客層も拡大中

(百万円)

	2018年		2019年		2020年		2021年		2022年	
	受注高	増減率	受注高	増減率	受注高	増減率	受注高	増減率	受注高	増減率
国内	13,608	15.6%	10,815	▲20.5%	12,454	15.2%	12,274	▲1.4%	11,841	▲3.5%
海外	3,875	6.3%	3,812	▲1.6%	3,597	▲5.6%	4,034	12.1%	3,398	▲15.7%
(うち中国)	3,610	9.0%	3,598	▲0.3%	3,258	▲9.5%	3,504	7.6%	2,871	▲18.1%
連結合計	17,484	13.4%	14,627	▲16.3%	16,051	9.7%	16,308	1.6%	15,240	▲6.5%

5. 参考資料

為替レート (PL使用レート)

	2021年 第1四半期	2021年 第2四半期	2021年 第3四半期	2021年 第4四半期	2022年 第1四半期	2022年 第2四半期	2022年 第3四半期	2022年 第4四半期	2023年 第1四半期	2023年 第2四半期
円／元	16.38	16.67	16.79	17.04	18.31	18.97	19.38	19.50	19.35	19.46
円／米ドル	106.09	107.82	108.58	109.90	116.34	123.14	128.30	131.62	132.42	135.00
円／ユーロ	127.81	129.89	129.87	129.91	130.40	134.39	136.05	138.14	142.16	145.93
円／ルピー	1.47	1.48	1.48	1.50	1.56	1.62	1.67	1.68	1.62	1.65
円／バーツ	3.50	3.50	3.45	3.44	3.52	3.65	3.70	3.75	3.91	3.95

5. 参考資料

金型開発状況 金型の資産状況

3,862型の保有金型のうち約9割は償却済み、収益の源泉であり財務効率に優れる。オランダの金型は日本へ移動した

		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年2Q (金型数)
日本	完成金型数	152	123	59	97	93	65	55
	廃却・移動	▲30	▲54	▲80	▲99	▲16	▲30	▲27
	保有金型数	2,273	2,342	2,321	2,319	2,396	2,431	2,459
中国	完成金型数	106	96	74	84	89	32	14
	廃却・移動	▲22	9	7	▲159	▲8	▲19	▲6
	保有金型数	998	1,103	1,184	1,109	1,190	1,203	1,211
オランダ	完成金型数	-	-	19	4	-	-	-
	廃却・移動	-	-	-	-	▲23	-	-
	保有金型数	-	-	19	23	-	-	-
インド	完成金型数	-	18	27	48	45	31	21
	廃却・移動	-	-	-	-	-	-	2
	保有金型数	-	18	45	93	138	169	192
連結	完成金型数合計	258	237	179	233	227	128	90
	保有金型数	3,271	3,463	3,569	3,544	3,724	3,803	3,862
		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年2Q (百万円)
連結取得金額		4,706	4,875	4,827	4,654	5,003	5,220	5,407
連結減価償却累計額		▲4,048	▲4,147	▲4,175	▲4,163	▲4,453	▲4,743	▲4,882
連結金型(純額)		657	727	651	490	550	477	524
純額割合		14.0%	14.9%	13.5%	10.3%	11.0%	9.1%	9.7%



竹本容器株式会社
代表取締役社長
竹本 笑子

会社名 竹本容器株式会社
Takemoto Yohki Co., Ltd.

設立年月 1953年5月19日（昭和28年）

代表者 代表取締役社長 竹本 笑子

所在地 東京都台東区松が谷2丁目21番5号

事業内容 容器の企画・開発・製造・販売

資本金 8億342万1,725円（2023年6月30日現在）

発行済株式数 12,529,200株（2023年6月30日現在）

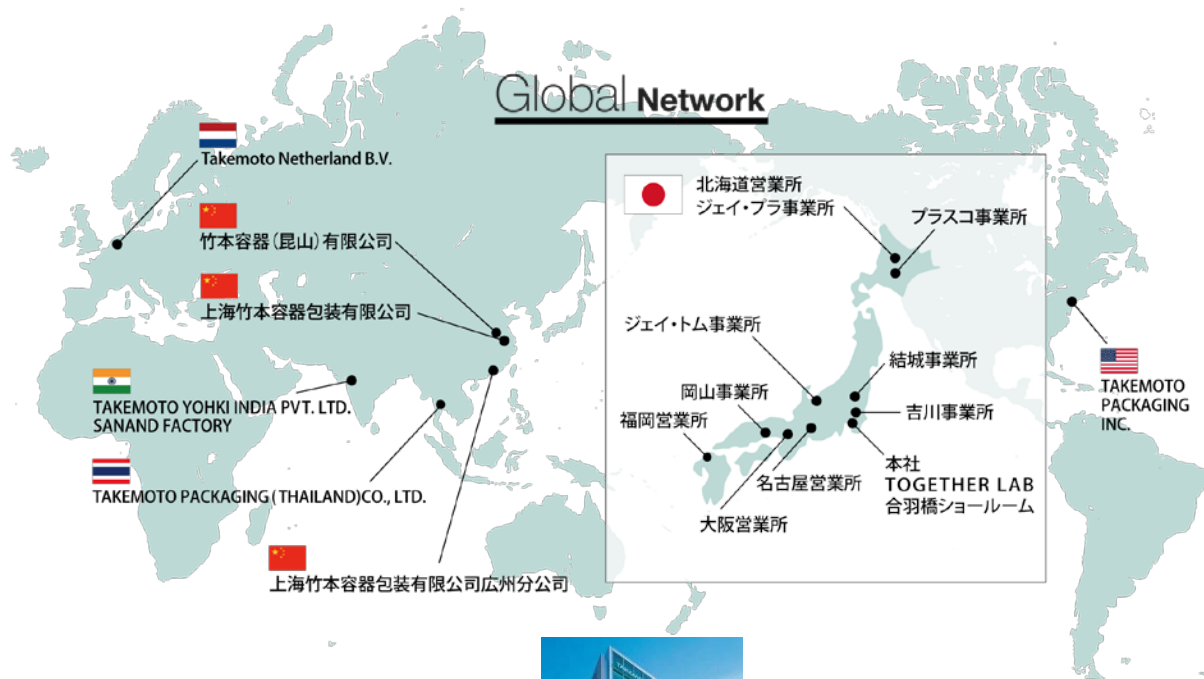
単元株主数 9,574名（2023年6月30日現在）

グループ従業員数 872名（2023年6月30日現在）

上場市場 東京証券取引所プライム市場

[証券コード：4248]

ホームページ <https://www.takemotopkg.com>



JQA-FC0115
結城事業所
食品用プラスチック
容器の製造
(印刷製品は除く)



JMAQA-F 477
JMAQA-FC 376
岡山事業所
食品用プラスチック
容器の製造



本社



合羽橋ショールーム



大阪営業所・ショールーム



福岡営業所・ショールーム



名古屋営業所・ショールーム



北海道営業所



TOGETHER LAB

本資料に掲載されている将来に関する記述の部分は、資料作成時において当社が各種情報により判断した情報ではありますが、その内容を当社として保証するものではありません。

予想数字等は、今後の経済情勢、市場動向等の変化による不確実性を含有しております。また、本資料は投資勧誘を目的に作成したものではありません。投資を行う際は、ご自身のご判断で行って頂きますようお願い申し上げます。

すべては “ Standout ” な
パッケージングソリューション
創造のために